

就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験

令和 6 年度 国 語 (40 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は全 16 ページです。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落^{らく}丁^{ちょう}・乱^{らん}丁^{ちょう}及び汚れ等に気付いた場合は、手をあげて試験監督者に知らせなさい。
- 3 試験開始の合図の後、受験地、受験番号、氏名を解答用紙に記入しなさい。
- 4 解答は、各設問の指示に従い、全て解答用紙の解答らんに記入しなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってかまいません。

1

次の1から5までの問いに答えなさい。

1 次の①から④までの各文の——線部のカタカナの部分に当たる正しい漢字を、それぞれのアからウまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- | | | | |
|--------------------------------|------|------|------|
| ① この薬は風邪によく <u>キ</u> く。 | ア 聞 | イ 利 | ウ 効 |
| ② 温泉のお湯はちょうどよい <u>アツ</u> さだった。 | ア 暑 | イ 熱 | ウ 厚 |
| ③ <u>ヘイコ</u> ウな二本の線を引く。 | ア 平行 | イ 閉口 | ウ 平衡 |
| ④ 新しい提案が会議で <u>シヨウニン</u> された。 | ア 証人 | イ 昇任 | ウ 承認 |

2 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、それぞれのアからエまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- | | | | | |
|-------------------|------|------|------|------|
| ① 水に <u>浸</u> す。 | ア しる | イ みた | ウ ちら | エ ひた |
| ② 長年の <u>知己</u> 。 | ア しき | イ しみ | ウ ちき | エ ちみ |

3 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、解答らんにひらがなで書きなさい。

- ① 覚悟を決めて取り組む。
- ② 多くの時間を費やす。

4 次の①と②のそれぞれ二つの熟語は、☐に同じ漢字を入れることで、類義語の関係になる。☐に当てはまる漢字を、それぞれのアからエまでのの中から一つずつ選び、解答らの記号を○で囲みなさい。

① 意 ☐ 案 ☐

ア 中 イ 外 ウ 内 エ 下

② ☐ 接 ☐ 対

ア 応 イ 逆 ウ 絶 エ 合

5 次の①と②の言葉の意味としてふさわしいものはどれか。後のアからエまでのの中から一つずつ選び、解答らの記号を○で囲みなさい。

① 漁夫の利
② 蜚雪の功

ア 一つの行為によって二つの利益を得ること。

イ 詩や文章をよりよくしようと表現を練り直すこと。

ウ 人の間違った言動も自分を磨く助けになること。

エ 苦勞して勉學に励んで成果を上げること。

オ 両者が争っている間に第三者が得をすること。

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからEまでの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

人間の脳は、無意識の中で多くの活動、思考をしているのである。

後ほど詳しく説明するが、記憶の中には「言葉として蓄える」記憶と「言葉にしにくい」記憶がある。試験などで活躍するのが前者であり、「物忘れ」という時にはほとんどの場合、これを指している。一般的に論理的と言われる決定は、この言葉で表現された記憶をもとになされたものである。

一方で、いろいろな世の中の出来事を持つ意味合いを理解して脳の中に蓄えていくことは、言葉として取り出しにくい記憶である。そして、記憶の量として圧倒的に多いのが、この「言葉にしにくい記憶」なのである。こういった記憶の多くは無意識の中に蓄えられ、年を重ねるごとに増えていき、失われる部分が少ないことが明らかとなっている。いわゆる「年の功」、あるいは「経験値」と言われるものだ。

直観とは無意識の中に蓄えられた記憶・経験値から、無意識の中で思考して生まれてくるもので、根拠のないいい加減なものなどではない。むしろ直観こそが、脳内の膨大な記憶に基づいた「最も論理的な」意思決定と言っても良いだろう。そして、全ての経験値を活用するために、脳の一部ではなく、脳を広く使うことが、優れた直観に結びつくのである。

直観は「無意識のうちに」生まれてくるために、我々がその過程を意識的にコントロールすることは難しい。()、脳を広く使うお膳立てをすることによって、より良い直観を得る可能性を高めることはできる。

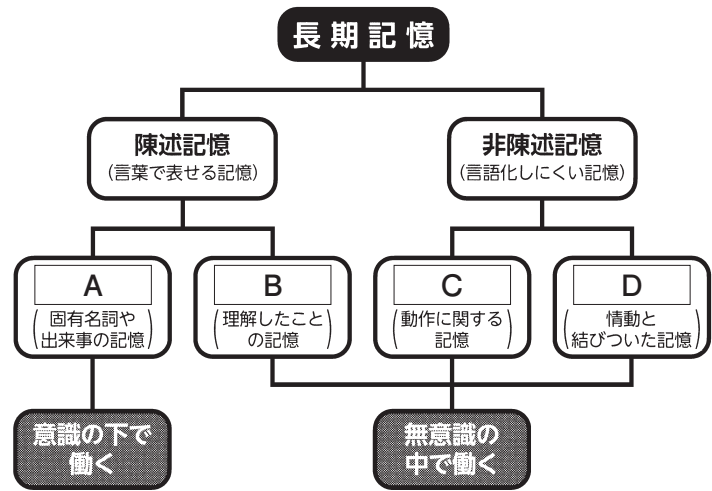
私たちは、より良い直観を得るためにどんな努力を重ねていけば良いのか。そのための習慣やコツについては後述していく。

無意識の中に蓄積された記憶

直観の発動には、無意識の中の記憶が重要であると述べてきた。この「無意識の中の記憶」とはいったい何だろうか？

^{注1} 長期記憶には4つの種類があるのだが、大きく2つに分けられる。「陳述記憶」と「非陳述記憶」である(図)。陳述記憶は言葉で表すことのできる記憶、非陳述記憶は言葉にしにくい記憶とされている。

長期記憶の分類



① 非陳述記憶には「手続き記憶」と「情動記憶」があり、いずれもその記憶が発動する時に、我々はそれを意識しない。

手続き記憶の例としては、歩く時の身体の使い方、言葉を発する時の口や舌の使い方など、運動の巧緻性^注を含めた身体に関する記憶である。この記憶は、大脳基底核という脳深部にある神経細胞の集まった部位と小脳に保存されており、意識されることなくとも無意識の中で働いている。

一方、情動記憶は、ある特定の出来事や人、もの、音、匂いなどが恐怖や喜びなどの情動と結びつくようになった記憶であり、これも無意識の中で発動し、人の好みや性格、考え方などに強く影響するようになる。何かを決める時の優先事項である「好み」は無意識の中の情動記憶が関わっている。この情動記憶は、古典的には、扁桃体^{かいば}にあるとされてきた。この扁桃体が記憶の獲得に必要な「海馬」と言われる場所に隣接している点

は、情動に関連した情報が記憶に残りやすい点を説明してくれる。ところが最近の脳科学の研究から、扁桃体の重要性が誤っているわけではないのだが、情動記憶の形成にはより広い脳領域が関係していることがわかってきたのである。つまり、情動記憶も次に示すエピソード記憶や意味記憶と結びついて、脳全体に保管されていると考えられるようになったのだ。

陳述記憶には「エピソード記憶」と「意味記憶」があり、エピソード記憶は、人の名前や予定、過去の出来事のように、時と場所が特定された記憶である。意味記憶は「1年は365日ある」「冬の次には春が来る」といったように、理解した内容に関する記憶のことであり、それを得た時と場所の情報は伴わない。この2つの記憶は、ともに側頭葉を中心とした大脳皮質全体に保管されている。

意味記憶は直観を引き出す重要な要素なので、もう少し詳しく説明しよう。意味記憶は「物事の意味を理解した記憶」のことであり、形を成さない「概念」のようなものである。これは通常、言葉にできる記憶に分類されるが、そう簡単に言葉に表せないものが多い。同じ陳述記憶に含まれているが、エピソード記憶が「言語による記憶」なのに対し、意味記憶はあくまでも「理解したことの記憶」なのである。言語による記憶、特に固有名詞などは個々に脈絡が少ないために忘れやすいが、理解したことの記憶は他の記憶

と結びついてネットワークを作っているため忘れにくい。直観を生み出す無意識の中の膨大な記憶のネットワークとは、この意味記憶のことである。意味記憶は、その一部を言語化して表現することも可能であるが、その全貌は無意識の中にあつて、無意識の中で働いているのである。

²例えば、自動車の運転の上達などが挙げられる。経験を重ねることによって、全く同じような状況の再現は起こらなくても、似たような状況において「どのように対応すれば、どうなるか」が理解・記憶されており、より安全で的確な運転ができるようになってくる。こういった運転技術の進歩を言葉で説明することは難しい。それは、ハンドルを回すとかブレーキを踏むといった動作の記憶ではなく、状況を理解し、そこで最適な対応を脳の中で構築するための経験値の記憶のことである。

(岩立康男『直観脳 脳科学がつきとめた「ひらめき」「判断力」の強化法』による。)

(注1) 長期記憶……長い間覚えていられる記憶。

(注2) 巧緻性……身体を上手に動かして調整すること。

1 ¹これ が指している内容はどれか。

ア 人間の脳

イ 「言葉として蓄える」記憶

ウ 「言葉にしにくい」記憶

エ 論理的と言われる決定

2 () に当てはまる言葉はどれか。

ア だが

イ なぜなら

ウ つまり

エ あるいは

3 文章中の図の A に当てはまる言葉はどれか。

ア 手続き記憶

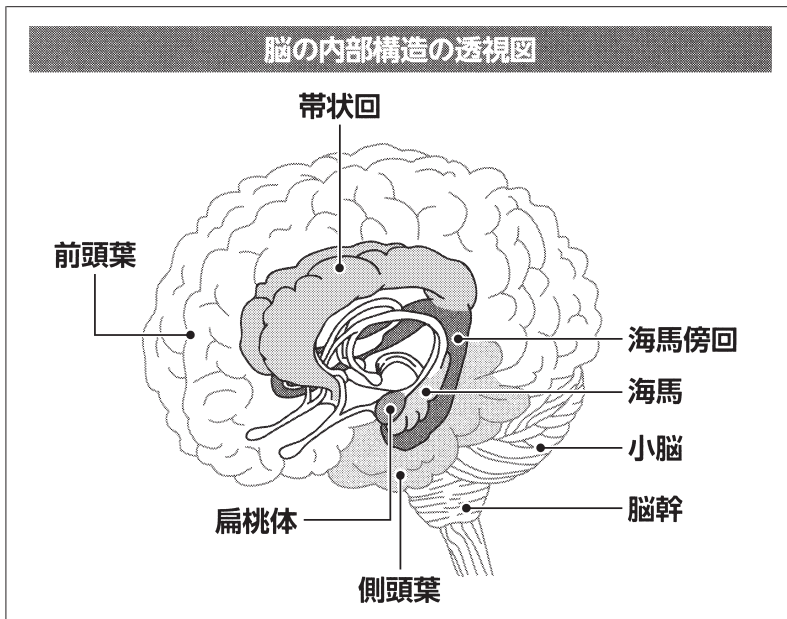
イ 情動記憶

ウ エピソード記憶

エ 意味記憶

4 次の【資料】から分かることを述べている文はどれか。

【資料】



エ	ウ	イ	ア
線部④	線部③	線部②	線部①

5 「――」で囲まれた段落の役割について、正しく述べたものはどれか。

ア 前の段落で述べた「意味記憶」を取り上げ、複数の具体例を挙げながら客観的に説明している。

イ 前の段落で述べた「意味記憶」を取り上げ、他の種類の記憶と比べながら詳しく説明している。

ウ 前の段落で述べた「エピソード記憶」を取り上げ、人の好みと関連させながら論点を整理している。

エ 前の段落で述べた「エピソード記憶」を取り上げ、新たな説を引用しながら論の展開を図っている。

6 ² 例えば、自動車の運転の上達などが挙げられる とあるが、自動車の運転の上達が「意味記憶」の例として挙げられている理由を次の文のようにまとめた。次の文の（ ）に当てはまる言葉を、文章中から十二字で書き抜きなさい。

自動車の運転は、意味記憶をもとに、（ ）しながら技術を進歩させていくものだから。

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからEまでのの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

ピアノを習っている中学生の「わたし」(美咲)は自転車で帰宅中、ふと聞こえてきたピアノの演奏に心を奪われた。音を頼りに、ある家の前までやって来ると、そこで自分の母と同年くらいの由貴奈と出会った。以前ピアノ教室を開いていたという由貴奈の演奏を家の中で聞かせてもらった「わたし」は、ピアノを習いに来たいと言ったが、由貴奈は教室を再開するかどうかは迷っていると話した。

「今習っている先生の話は、あまり好きになれないの？」

「これまで習った先生たちはみんな、優しい先生ばかりでした。今の先生も、ピアノは厳しいけど、普段は優しい先生です。でも……」
「堅苦しいって、さっき言ってたわよね」

「楽譜通りの指使いは大事だからって、ものすごく厳しい」

「それは本当のことよ。みんなが最初に弾くバイエルは退屈^{注1}だけど、基本を指に覚え込ませるためには、とても大切な教本だもの」
「基本が大事だってことは、よくわかります。でも、曲がどんどん難しくなってくると、こっちの指のほうが弾きやすいのって思うところが、たまにあたりする。そんなときも、楽譜通りじゃないとだめなのかなって……^{注2}速度記号も、先生は全部楽譜通りについて言うけど、なんでここで急に早くなるんだろうとか、ゆっくりになるんだろうとか、考え始めると、どんどんわからなくなってきた……」

「Allegro とか、Andante とか」

「発想記号^{注3}になるともっとわからない。優美^{ユウビ}について、何それ？」

「本^{ほん}当^{とう}ね」

頷^{うなず}きながら、由貴奈が楽しそうに笑う。

「けど、速度記号が大事なように、発想記号もやっぱり大事。曲を作った人間の側から見ればね。淋^{さび}しい風景を表現したくて、静かにゆっくり弾いて欲しいのに、弾みながら軽やかに弾かれたら、それは違うって、やっぱり言わなきゃいけない」

その弾き方は違う。

今習っている先生の口調を、わたしは思い浮かべた。

もっと悲しそうに。

途中で止めて言われても、そこからどうやって始めればいいのか、途端にわからなくなる。

「曲のその部分をどんなふうに弾いて欲しいのか、大まかな指示は大事にしなければいけない。ラヴェルにしろショパンにしろ、曲を作ったその人に、敬意を払うって意味でもね。でも、悲しげによって指示をされて、どんな悲しみを思い浮かべるかは、弾く人間が自分で考えるべきことだと思ふのよ」

何が言いたいのだろうと、わたしは由貴奈の顔を見つめた。²

「言い換えれば、どんな悲しみを思い浮かべるかは、弾く人間の自由ってことね。だから、Galante、優美について言われて、何を思い浮かべるかはあなたの自由。あなたにとって優美に見えるもの、王宮で着るようなドレスでも、平安時代の十二単じゅうにひらえでも、何でもいい。あなたの心が、優美だっと思えるものなら。ため息が出るくらいきれいで、ちょっと近寄りがたくて、でもやっぱり触れてみたい、憧れる……そういうもの、何かある？」

「えっと……あ、外国のウエディングドレス。ちょっと前にテレビで見た、すそがものすごく長くて、着るのが大変そうで、自分で着たら絶対に歩けない。でも、レースが何重にもなっていて、豪華で、ため息が出るくらいきれいだった。すぐ近くで、本物を見てみたって」

「それでいいのよ」

³ 由貴奈がわたしに向かって頷いた。

「なんてきれいなんだろうって、あなたの中に生まれた憧れの気持ちを、忘れず大事にして」

「憧れの気持ち」

「他にも、ちょっと練習してみましようか。例えばCalmatoは、静かにとか、穏やかにだけど、あなたにとって、しんとして音が少なくて、でも心が落ち着いて穏やかになれる、そう感じるものは何？」

「静かなのは……図書館。いつもそう思う。入ってすぐは、静かにしなきゃってちょっと緊張するけど、慣れてくると落ち着いて、

本を読みながら、呼吸がだんだんゆっくりになる感じ」

「ほら、自分のことなら、わかるでしょう？」

「ほんとだ、すごい。今の先生も、そんなふうに教えてくれたらいいのに」

「表現を教えるって、難しいわ、とても」

「でも今、わかりやすかった」

「感じ方のヒントを言っただけよ。表現を教えたわけじゃない。あなたが感じたものをどう曲に映し出すか、それは、あなた自身にしか出来ないことだもの」

「わたし自身……」

ウエディングドレスのように優美に。図書館のように静かに。

それを、曲に映し込むにはどうしたらいいのだろう。頭の中で思い描きながら弾けば、自然とそうなるのだろうか。

「発想記号は本当にたくさんあるから、普段から、周りにあるものをよく見ておくのがいいと思う。これは楽しい、これは優しい、これは悲しい。見たときに、自分の中にどんな感情が生まれるのか、よく気をつけながら」

帰り際、由貴奈のメールアドレスを教えてもらった。

あと一週間経って、わたしがまだ由貴奈に習いたいと思っていたら、メールをくれればいい。由貴奈自身はそのときまでに、ピアノ教室をどうするのか、ちゃんと考えておく。

「お邪魔しました」

庭仕事に戻っていた父親^{注4}に声をかけると、顔を上げて、「またいらっしやい」と言いながら見送ってくれた。

4 通りに止めたままだった自転車はそのまま、飼い主の帰りをじっと待つ、ちよっと淋しげな犬のようだった。乗り慣れた自転車⁴が、そんなふうに見えたのは初めてのことで。

お待たせ、ごめんね。

心の中でつぶやいてから、わたしはハンドルに手をかけた。

それから一週間が過ぎても、由貴奈からピアノを習いたいというわたしの気持ちは変わらなかった。

というよりも、由貴奈から習えるように、一週間かけてずっと、少しずつことを運んでいたのだ。最初にしたことは、今通っている教室をやめたいと母に相談することだった。教室を見つけ出してきたのは母だし、何の問題もなく通い続けていると、疑って貰いたくないはずだ。突然やめたいと言い出せば、教室で何かあったと考えるだろう。母が直接先生に問い合わせをする、そんな事態は絶対に避けたいと思った。

今の先生に、問題があるわけではない。理不尽な叱られ方をしたことはないし、意地悪を言われたこともない。ピアノの弾き方に対する考え方が、少し違っていただけなのだ。もしかしたら今の先生も、由貴奈のようにわかりやすく説明してくれたら、納得出来る部分もあったのかもしれない。でも先生はただ、楽譜通りにと繰り返すだけだった。生意気かもしれないが、結局はそれが、わたしの反発を招いてしまったのだ。

ピアノを弾き続けることが、わたしにはどうしても必要だった。

^{注。}音大に行きたいとか、ピアニストになりたいとか、そんな理由からではない。週に一度、必ずピアノ教室に通う。そのための練習があるから、一人で過ごすことが出来る。なくなってしまうたら、学校から帰って、誰もいない家で、夜まで何をすればいいのかわからない。今日はこの曲を練習した、先生とこんな話をした、その会話が全部なくなってしまうたら、母と何を話せばいいのだろう。休みの日、新しく弾けるようになった曲を演奏する。その時間がなくなってしまうたら、わたしは父に、いったい何を見せればいいのだろう。勉強が出来るわけでも、運動が出来るわけでもない。本をたくさん読むわけでも、絵が上手なわけでもない。そんな、何もないわたしが残されてしまう。考えるといつも、端から少しずつ、自分の形が消えていくような気がした。

もっと他に、興味を持てるものがあればよかったのかもしれない。でも当時のわたしは、他の女の子たちが夢中になるような、アイドルとかアニメとかゲームとか、その手のものにはほとんど興味がなかった。学校では適当に話を合わせていたが、自分から進んで会話に加わるようなことはまずなかったのだ。ピアノの練習ばかりしている。次のレッスンまでに、この練習曲をどうしても弾けるようになりたい。わたしにとって学校ではそれが、興味のない話題を口にしないで済む、とても便利な言い訳だった。部活も寄り道もせずさっさと帰っても、ピアノの練習のためだと、誰もが思ってくれていたはずだ。

ピアノを弾いているから大丈夫。

仕事が忙しくてなかなか休めない母は、わたしがそう答えるといつも、ほっとした顔をした。父だって、同じことを考えているから家まで買って、ピアノを置く部屋を作ってくれたのだろう。

だからわたしは、先生と考え方が違っても、演奏記号の全部をうさん臭く思っても、そう簡単にピアノをやめるわけにはいかなかった。わたしの日常を支える言い訳の全部が、一度に消えてしまうことになるからだ。でも息苦しかった。楽譜通りと言われるたび、あなたには何も見えていないと、指摘されている気がした。

そんなとき、由貴奈の演奏を耳にしたのだ。

あの瞬間わたしは、面倒な理由など全部飛び越えて、由貴奈のように弾きたいと心から願った。ピアノの音に、初めて憧れた。もう何年も弾き続けていたのに、ピアノという楽器があんな音を出すことを、わたしは少しも知らなかったのだ。

いや、たぶんわたしは、ずっとピアノが好きだったのだ。本当は、ピアノが好きで好きでたまらなかった。でも自信がなかった。他の物事に対するのと同じように、ピアノに対しても自信が持てなかった。あなたには才能がないと、いつか言い渡されることが怖かったのだ。だから、妙な理屈をつけて必死でピアノを続けていた。

でも由貴奈のピアノはわたしから、そんな臆病な覆いを一瞬で取り除いてしまったのだ。

ただ、弾きたい。

それ以外いったい何があるのかと。

(村木美涼『冷蔵庫のように孤独に』による。)

(注1) バイエル……ピアノの練習で使われる入門用の教本。

(注2) 速度記号……楽曲を演奏する上での速度を指示する記号。

(注3) 発想記号……楽曲を演奏する上での表現方法を指示する記号。

(注4) 父親……由貴奈の父親。

(注5) 音大……音楽大学の略称。

(注6) 演奏記号……速度記号や発想記号などの補助的に楽譜に記される記号。

1 堅¹苦しい とあるが、「わたし」はどのようなことを堅¹苦しいと感じているか。

ア さまざまなピアノ教室へ通いながら練習すること。

イ 指使いや速さを楽譜の指示どおりに演奏すること。

ウ 由貴奈よりも仲の良い先生のもとで練習すること。

エ 基本的な練習曲を失敗ないように演奏すること。

2 わたしは由貴奈の顔を見つめた とあるが、このときの「わたし」の様子はどれか。

ア 由貴奈が「何を言いたいのか」を感じ取り安心してしている様子。

イ 由貴奈に「何を言いたいのか」と反論しようとしている様子。

ウ 由貴奈が「何を言いたいのか」を理解しようとしている様子。

エ 由貴奈に「何を言いたいのか」と言われて反省している様子。

3 由貴奈がわたしに向かって頷いた とあるが、このときの由貴奈の様子はどれか。

ア 「わたし」が思い描いた優美なもののイメージを認めている様子。

イ 「わたし」が悲しみについて思い浮かべた内容に共感している様子。

ウ 「わたし」が見た優美なドレスを想像してため息をついている様子。

エ 「わたし」が悲しみを自由に感じられたことを喜んでいる様子。

4 通りに止めたままだった自転車はそのまま、飼い主の帰りをじっと待つ、ちょっと淋しげな犬のようだった とあるが、この表現の特徴を説明したものはどれか。

- ア 「由貴奈」の視点から捉えた自転車の様子を、倒置を用いて描いている。
- イ 「由貴奈」の視点から捉えた自転車の様子を、省略を用いて描いている。
- ウ 「わたし」の視点から捉えた自転車の様子を、対句を用いて描いている。
- エ 「わたし」の視点から捉えた自転車の様子を、比喩を用いて描いている。

5 息苦しかった とあるが、どういうことか。

- ア 考えてもわかるようにならない演奏記号をうさん臭いと思ってもピアノ教室をやめられず、煩わしかったということ。
- イ やめるわけにはいかないピアノ教室で先生から何も見えていないと指摘されている気がして、つらかったということ。
- ウ 弾き方に対する考え方が間違っている先生からピアノを教わり続けなければならず、うっとうしかったということ。
- エ ピアノの練習ばかりしている自分の日常を支える言いわけの全部が一度に消えてしまうのが、怖かったということ。

6 由貴奈の演奏を耳にしたのだ とあるが、由貴奈と出会ったことで「わたし」の考えはどのように変わったかを次の文のようにまとめた。次の文の（ ）に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って十字以内で書きなさい。

「わたし」はピアノに対して自信が持てず、妙な理屈をつけてピアノを続けていたが、由貴奈の演奏を聞き、（ ）と思うようになった。

田中さんは、職場体験学習でお世話になっている消防士の佐藤さんにインタビューをしています。次の【インタビューの一部】を読んで、後の1から3までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、アからエまでのの中から最も適切なものを選び、解答らの記号を○で囲みなさい。

【インタビューの一部】

田中 それではよろしくお願ひします。いくつか質問をさせていただきます。佐藤さんは、なぜ消防士になろうと思ったのですか。

佐藤 それは、小学生のときの社会科学見学で見た消防士の姿にアこがれたからです。

田中 社会科学見学で見た消防士の姿とおっしゃいましたが、

佐藤 消火活動以外にも体を鍛えたり、消防車や道具の点検をしたりしている姿です。消防士は消火活動に取り組むものばかり思っていました。いざというときのために準備を怠らない姿を見て、自分も使命感や責任感をもって努力する消防士になり、人の役に立ちたいという思いが芽生えたのです。

田中 そうなんですね。私も小学校の担任の先生の姿にアこがれて、小学校の先生になりたいと思い、その夢の実現に向けて勉強を頑張っています。佐藤さんが、消防士になるために頑張ったことは何ですか。

佐藤 消防士の採用試験に合格するために、採用試験に必要な勉強と体を鍛えることを頑張りました。

田中 消防士になるためには、勉強するだけでなく体も鍛えなくてはならないですね。私も勉強以外にも必要なことをもっと調べなくてはいけないなと思いました。次に、このインタビューで一番お伺いしたいことを質問したいと思います。私の職場体験学習の目標は、仕事のやりがいについて考えます。そこで、佐藤さんが消防士という仕事のやりがいを感じるの、どのようなときかを教えてください。

1

に当てはまる質問を考え、実際に話すように書きなさい。

2

私の職場体験学習の目標は、仕事のやりがいについて考えます とあるが、このままでは文末が不適切である。「考えます」の部分の部分を正しく書き直しなさい。

3

田中さんがインタビュー中に工夫していることはどれか。

ア それてしまった話題を修正するために、途中で佐藤さんの話をまとめている。

イ 目的にあった質問をするために、はじめに聞きたい内容を整理して伝えている。

ウ 佐藤さんの話を広げるために、反対の立場の意見を出しながら進めている。

エ さらに聞きたい話を引き出すために、自分の体験を関連付けて質問をしている。